

アウトカムファームを用いた片側人工膝関節全置換術パスの作成過程

坪 川 小百合¹⁾ 井 関 香寿美¹⁾ 勝 尾 信 一²⁾

要 旨:アウトカムファームを使用し,片側 TKA パスを作成した. 達成目標に沿ったデータ収集項目が多数挙げられた. 又今回,多数得られた達成目標とデータ収集項目には,他の疾患でも共通の項目が挙げられ他のパス作成時にも利用できる. 今後も,アウトカムファームで得られたデータを蓄積することでデータ収集項目がより満たされたものになり,パス完成までの期間短縮につながると期待される.

【Key words】入院時患者問題解決型アウトカム思考 アウトカムファーム

はじめに

当院では,過去のデータを標準化してパスを作成するという方法をとっている. パス作成過程において最初することはどのようなデータを収集するかを判断することである.

従来は,何日目でどのような検査や行為がされているかをみながらデータ収集項目を挙げ,不足していれば再度カルテを開いていた.

今回は,よりデータ収集項目の充実を図る為アウトカムファームを使用し,パス作成に取り組んだので報告する.

対 象

平成15年5月~平成17年1月に当科で片側TKAを施行した変形性膝関節症の患者20症例で,RA,両TKA施行,特殊人工関節(PSタイプ)使用の症例は除外した.

アウトカムファームの展開

一般的に,POS(問題志向システム)では,問題点を挙げその1つ1つに介入するのに対し,入院時問題解決型アウトカム思考では,入院時の問題点を達成目標に置き換えて考えていく.

そして目標を達成させるために何が必要かを考え,そこから新たな達成目標を挙げていく.

それを展開するためのツールとして用いられるのがアウトカムファームとなる.

アウトカムファームには,以下の6種類の用紙があり,これらの用紙を使用しパス作成を行なった.

＜アウトカムファーム＞

- ①退院までに達成される目標
- ②達成目標解析
- ③達成目標一覧
- ④達成目標以外にデータ収集が必要な項目用紙
- ⑤データ収集用紙
- ⑥オーバービューシート

方 法

まず用紙①「退院までに達成される目標」では,(入院時~手術前)と(手術後~退院)に分け<入院時の問題点>を挙げていく.そして,それに対する<退院までに達成される目標>を挙げていく.例えば,『変形性膝関節症に伴う症状がある』という問題点に対しては,[手術前の症状が軽快する]となり,それを具体化すると【膝痛が軽減する】,【可動域制限がなくなる】となる(図1).

次に用紙②「達成目標解析」を行う.用紙①で挙げられた「退院までに達成されるべき目標」を全て挙げていく.【膝痛が軽減する】という目標を1~6の項目に沿って解析していく(図2).

6の【新たに発生した達成目標】を再度,用紙②「達成目標解析」に同様に記入し,これらをすべての達成目標に対して繰り返していく.また,途中重なって出てくる場合は省いていく.

用紙③「達成目標一覧」には,用紙①で挙げられた達成

¹⁾ 福井総合病院 看護部 11病棟

²⁾ 福井総合病院 整形外科
(受付日 2006年3月)

用紙① 退院までに達成される目標

対象疾患 (手術)	片側 TKA
-----------	--------

〈入院時の問題点〉

〈退院までに達成されるべき目標〉

① 入院に対する不安がある (社会的・経済的・環境変化)	① [不安があるが入院が継続できる] (社会的・経済的・環境変化)
② 手術に対する不安がある	② [不安があるが手術を受けられる]
③ 変形性膝関節症に伴う症状がある	③ [変形性膝関節症に伴う症状の増悪がない]
④ 手術予定である	④ [手術を受けられる]

(入院時～手術前)

① 腰椎麻酔後である	① [腰椎麻酔による侵襲から回復する]
② 尿道カテーテルが挿入されている	② [尿道カテーテルが抜去できる] ・尿道カテーテル挿入・留置による合併症がない
③ 片側TKA施行後である	③ [手術前の症状が軽快する] ・膝痛が軽減する ・可動域制限がなくなる [手術による侵襲から回復する] ・創出血がなくなる ・創痛がなくなる ・創が治癒する [手術による合併症がない] ・創感染がない ・創離開がない ・関節内血腫がない ・皮下血腫がない ・関節内水腫がない ・深部感染がない ・深部静脈血栓症がない ・肺塞栓症がない

(手術後～退院)

図 1. 用紙① 退院までに達成される目標

用紙② 達成目標解析

達成目標 (患者・介入)	膝痛が軽減する
-----------------	---------

1. 基準（患者：判断基準，介入：終了基準） ・ 屈曲120度時の痛みがない ・ 階段1往復時の痛みがない ・ 平地歩行時（病棟⇄PT室間）の痛みがない	4. 達成されるために行うこと ・ 手術 ・ リハビリ
2. 基準を判断するためにすること ・ 屈曲120度時の痛みを聞く ・ 階段1往復時の痛みを聞く ・ 平地歩行時（病棟⇄PT室間）の痛みを聞く	
3. この目標以前に達成されているべきこと ・ 120度屈曲できる ・ 階段昇降1往復できる ・ 平地歩行（病棟⇄PT室間）できる	5. この目標で発生する問題 （患者：達成まで，介入：達成によって） 無
6. 新たに発生した目標（3・4・5の項目すべてを達成目標としての言葉に置き換えて） ・ 120度屈曲できる ・ 階段昇降が1往復できる ・ 平地歩行（病棟⇄PT室間）できる ・ 問題なく手術が終えられる ・ 問題なくリハビリが進行する	（患者・介入） （患者・介入） （患者・介入） （患者・介入） （患者・介入）

達成目標 (患者・介入)	120度屈曲できる
-----------------	-----------

新たに発生した達成目標

図2. 用紙② 達成目標解析

目標及び用紙②「達成目標解析」で新たに挙げられた達成目標を介入側の目標と患者側の目標を区別して記入していく。

用紙④「達成目標以外にデータ収集が必要な項目一覧」は、用紙②「達成目標解析」の2で挙げたものを記入していく（図3）。

用紙⑤「データ収集用紙」は、用紙③「達成目標一覧」、用紙④「達成目標以外にデータ収集が必要な項目一覧」で挙げた項目を収集しやすいよう分けて整理する用紙で、実際のデータを記入し標準化していく。

用紙⑥「オーバービューシート」は、標準化された項目を時系列で記入する用紙でパスの原型となる。

以上のアウトカムファームを使用し、作成した片側TKAパスの一部（術後6～8日目）を紹介する。

術後6日目には、「自力で車椅子乗車できる」、「体温が37.0度以下である」、術後7日目には、「ガーゼフリーとなる」、「他動で120度屈曲できる」、「採血結果に異常がない」、術後8日目には、「創離開がない」、「平行棒内歩行にて痛みの増強がない」という達成目標に対し、それぞれ観察項目を入れた（図4）。

用紙③ 達成目標一覧

- ・ 膝痛が軽減する (患者・介入)
 - ・ 膝の可動域制限がなくなる (患者・介入)
 - ・ 入院に対する社会的不安があるが入院が継続できる (患者・介入)
 - ・ 入院に対する経済的不安があるが入院が継続できる (患者・介入)
 - ・ 入院に対する環境の変化があるが入院が継続できる (患者・介入)
- 等

と挙げられ、患者側の目標と区別できる。

用紙④ 達成目標以外にデータ収集が必要な用紙一覧

- ・ 120度屈曲時の痛み
- ・ 階段1往復時の痛み
- ・ 平地歩行時（病棟⇔PT室間）の痛み 等

用紙⑥ オーバービューシート

日 程	術後7病日目	術後8病日目	術後9病日目
達成目標	①自力で車椅子乗車できる ②体温が37度以下である	①ガーゼフリーとなる ②採血結果に異常がない	①創離開が無い ②平行棒内歩行にて 痛みの増強が無い
項 目	・バイタルサイン測定 1検 ・創痛の程度 ・膝腫脹の程度 ・膝熱感の程度 ・創部 滲出液の有・無 ・車椅子乗車自立 可・不可	ガーゼフリー 可・不可	創離開 無・有 平行棒内歩行時 の痛み増強 無・有

パスの原型

図3. 用紙③ 退院達成目標一覧

用紙④ 達成目標以外にデータ収集が必要な項目一覧

用紙⑥ オーバービューシート

氏名 () 様 ID ()	福井総合病院 整形外科 片側人工膝関節全置換術 (05. 10)		
	術後6日目 (/ /)	術後7日目 (/ /)	術後8日目 (/ /)
達成目標	①自力で車椅子に乗りできる ②体温が37.0℃以下である	①ガーゼフリーとなる ②他動で120度屈曲できる ③採血結果に異常がない	①創離開がない ②平行棒内歩行にて痛みの増強がない
指示	(右・左) 膝関節 《Dr》 院内フリー [Ns] 清拭 老人納豆禁止食 創傷処置 [Ns] CPM時クーリング [Ns] DPX ①ROM訓練 ②筋力増強訓練 [PT] CPM () 度 ①ADL訓練 ジソペイン錠 (75) 3錠・ウルグートカプセル3Cap/分3朝昼夕食後 ボルタレンサゴ50mg アモバン錠 (7.5) 1錠 ブルゼノド1錠 []	《Dr》 [Ns] シャワー可 [Ns] CPM時クーリング [Ns] 採血S-76(至急) ③基本動作練習 ④歩行訓練 [PT] CPM () 度	《Dr》 [Ns] CPM時クーリング
追加指示	《Dr》 <Ns> [Ns]	《Dr》 <Ns> [Ns]	《Dr》 <Ns> [Ns]
説明		[Dr] 採血結果 Hb 1日目と比べて改善 有・無 CRP 2.5未満 2.5以上 その他	[Ph] 薬剤管理指導 効能効果・用法用量 服薬上の注意・副作用
確認		[Ns] 入院処方箋	
患者状態			
時間	日勤帯 (:) [Ns]	日勤帯 (:) [Ns]	日勤帯 (:) [Ns]
体温	℃	℃	℃
脈拍 / 血圧	/分 整・不整 /	/分 整・不整 /	/分 整・不整 /
尿 / 便	/ 回	/ 回	/ 回
創部痛	無・弱・強	無・弱・強	無・弱・強
膝熱感	無・弱・強	無・弱・強	無・弱・強
膝腫脹	無・弱・強	無・弱・強	無・弱・強
自主訓練	済・未	済・未	済・未
車椅子乗車 / ニープレス	自立・監視・介助 要・不要	自立・監視・介助 要・不要	自立・監視・介助 要・不要
心理	正常・不安・不穏	正常・不安・不穏	正常・不安・不穏
摂取量	[Ns] [Ns] [Ns] 朝 / 昼 / 夕 /	[Ns] [Ns] [Ns] 朝 / 昼 / 夕 /	[Ns] [Ns] [Ns] 朝 / 昼 / 夕 /
投薬	朝[Ns] 昼[Ns] 夕[Ns] (:) [Dr]	朝[Ns] 昼[Ns] 夕[Ns] (:) [Dr]	朝[Ns] 昼[Ns] 夕[Ns] (:) [Dr]
創部状態	発赤 無・有 滲出液 無・有	発赤 無・有 滲出液 無・有	発赤 無・有 滲出液 無・有
薬剤確認			(:) [Ph] 服薬状況 良・悪 禁忌・重複投薬 無・有 副作用・相互作用 無・有 質問 無・有
平行棒内歩行 PT	ニープレス 要・不要	ニープレス 要・不要	歩行時の痛み 無・弱・強 ニープレス 要・不要
膝関節ROM	自動() 他動()	自動() 他動()	
特記事項	(:) []	(:) []	(:) []
巡視サイン	[Ns] [Ns] [Ns] 0・3・6 9・12・15 18・21 [PT] 理学療法(個別) 単位 早期加算 (14日以内) 単位 [OT] 作業療法(個別) 単位 早期加算 (14日以内) 単位 []	[Ns] [Ns] [Ns] 0・3・6 9・12・15 18・21 [PT] 理学療法(個別) 単位 早期加算 (14日以内) 単位 [OT] 作業療法(個別) 単位 早期加算 (14日以内) 単位 []	[Ns] [Ns] [Ns] 0・3・6 9・12・15 18・21 [PT] 理学療法(個別) 単位 早期加算 (14日以内) 単位 [OT] 作業療法(個別) 単位 早期加算 (14日以内) 単位 []
追記事項			
共同問題・看護計画 (詳細に関しては別紙アセスメントツール参照)	[Ns]	[Ns]	[Ns]
ヴァリアンス内容・コード	[]	[]	[]

図 4 . 片側TKAバス一部抜粋

結 果

アウトカムファームを使用し、用紙③「達成目標一覧」に挙げられた数は、介入側の達成目標が95、患者様側の達成目標が136で計231項目、用紙④「達成目標以外にデータ収集が必要な項目」に挙げられた数は172項目で、情報収集の途中で新たに追加した項目は72項目、計244項目だった。追加した項目の内容には、書類関係やリハビリなどがあった。データ収集項目の不足が従来の方法よりどのくらい補えたかということは、比較できなかったが、達成目標に沿ったデータ収集項目が多数挙げられた。

考 察

アウトカムファームを使用し達成目標を詳細に解析することにより、適切なデータ収集項目を抽出することができた。私たちの医療行為を見直す重要な機会となり、

病態理解が深まった。さらに、多職種で取り組むことにより達成目標解析が容易になると考える。

また今回、多数得られた達成目標とデータ収集項目には、他の疾患でも共通の項目が挙げられ、他のパス作成時にも利用できると思う。

今後も、アウトカムファームで得られたデータを蓄積することでデータ収集項目がより満たされたものになり、パス完成までの期間短縮につながると期待される。

ま と め

今回、アウトカムファームを使用し片側TKAパスを作成した。達成目標を詳細に解析することにより適切なデータ収集項目を抽出することができた。今後もアウトカムファームで得られたデータを蓄積し、活用することでパス完成までの期間短縮につながると期待される。

文 献

- 1) 勝尾信一：オールインワンパス活用実例集